

広島経済レポート

1951年創刊

11月30日号

毎週木曜日発行

月間購読料2,090円
(1,900円(送料込)+税)

今週の主要記事

- 6 …… 1.5R 西日委 温品で大型宅地開発
- 7 …… デイ・リンクが福祉事業に参入
- 9 …… 佐伯区皆賀に医療福祉複合施設
- 20 …… デジマケ[®]＜ネット動画広告＞

巻頭特集

経営危機から反転攻勢

3社のトップに聞く



三光電業
森脇喜美代 社長

アクセ
高垣孝久 社長

東洋商事
長谷川康垣 社長

この街で、
これまでも、これからも。
福屋は
皆様と共に
歩み続けます。

Fukuya

<https://www.fukuya-dept.co.jp>



今年の新酒が
できました!

賀茂鶴

11月1日出荷開始

「四社氏四季酒」 季節限定酒

純米しぼりたて

希望小売価格

720ml詰 税込1,331円(税抜1,210円)

お酒は20歳になってから 1.8L詰 税込2,783円(税抜2,530円)

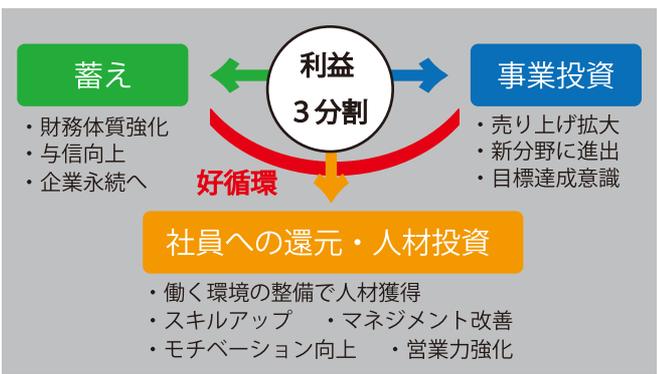
三光電業 森脇喜美代 社長

利益は事業・人材・蓄えに3分割 社員の力で100億円企業を達成



電子、制御部品、FA機器などの商社で、導人先の業務改善や効率化の提案を強みとする。森脇社長は先代である父の病状を受けて2005年に就任し、幹部の大量退職や08年

のリーマンショックという苦難を経験。大幅減収から100億円企業への成長を達成した背景には「利益を事業投資、社員への還元・人材投資、蓄えに3分割する」考えがあった。



1957年の創業から地場大手の地位を築いた父が2006年に逝去したことで部長職以上の大半が会社を去り、売り上げが毎年10億円ずつ減少。森脇社長は当時を思い出し、「実はさほど危機感がなかった。長年にわたり経理を担当していたため、財務状況を考えるとやっていたいける算段があった」と語る。リーマンショックで国内全体が不景気になり、同社の減収の隠れみよになったと言うから発想の転換が面白い。もちろん業績回復へ手を打つ。しかし、目先の売り上げだけを追っても将来性が無い。そこで、これから会社を引っ張っていく人材の育成に経営資源を集中投入した。まずは、あいさつなどの基本から徹底。社員には同じ取引先を月に一度は訪問させ、その会社がいまどうなっているのか、何を欲

しているだろうか、見る目を養わせた。こうして雌伏の期間に育成した社員が付加価値の高い業務を行えるようになり、V字回復。16年7月に売上高100億円を突破した。経理畑を歩んできたこともあるのだろう。無借金経営で堅調推移する。

人材への投資を惜しまない

利益の「3分の1理論」は人材育成の面でも成果を出した。森脇社長は「特に人材への投資を惜しむことなく行える。3分の1を使い切って良いのだから」ときっぱり。スキルアップ手当や、子ども手当の支給などを制度化。システムインテグレーター養成にも力を注ぐ。毎月、目標達成率の高い営業員と所属先の所長を食事へ招き、モチベーションを高めている。同時に、働く環境の向上を推進。社員の有給休暇取得や、月5回の定時退社を徹底している。固定残業代を付けることで、努力した人は早く帰っても収入が減らない仕組みを整えた。家族と過ごすなど、自分の時間を有意義に使ってもらおう。

事業投資の面では本社の建て替えや、西日本に10カ所構える営業所の社屋新築などを進めてきた。主力の電子制御部品の販売に加え、製造業の自動化や省力化などで需要が高まる協働ロボットの提案を成長分野に位置付ける。18年には展示場「ロボットパークひろしま」を南区比治山本町に開設。今年11月に協働ロボット製造で世界一のユニバーサルロボット（デンマーク）認定トレーニングセンターを同所に設けた。23年7月期売上高は前年比7・8%増の110億円を計上し、今期は120億円を予想。「明確な目標を設定すれば社員の動機付けとなり、達成に向けて方策を考え出す。それがスキルアップにつながる好循環が生まれる」と森脇社長。協働ロボット分野を拡大し、30年に約2倍増の売上高200億円を目指す。